

第5回あきる野市自殺対策推進協議会次第

日 時 令和2年2月18日(火)
午後7時00分～8時40分
会 場 市役所4階 401会議室

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) パブリックコメントの結果について

(2) 自殺対策推進計画(最終案)について

<別紙1>

(3) 自殺対策計画の推進について

<別紙2><別紙3>

4 その他

来年度の会議について

5 閉 会

出席委員(11人)

会 長 植 田 宏 樹
委 員 山 崎 敦 子
委 員 栗 原 和 夫
委 員 神 座 秀 夫
委 員 金 子 桂 一
委 員 清 水 康 雄

副会長 石 井 雄 吉
委 員 南 沢 文 江
委 員 曾 我 有 二
委 員 藤 森 文 子
委 員 田 中 惠 子

事務局

健康福祉部長 川久保 明
健康づくり係長 高水 洋輔
健康づくり係 山本 美夏

健康課長 鈴木 修
健康づくり係主査 岡村 とも子

【議事要旨】

開 会

○事務局説明事項

- ・ 新任委員の紹介とあいさつ（あきる野市民生児童委員、南沢委員よりあいさつ）
- ・ 協議会設置要綱第8条第3項の規定により成立していることを報告

議 事

○協議会設置要綱第9条第2項の規定により、植田会長により議事の進行

（1）パブリックコメントの結果について

※事務局より説明、質問は特になし。

（2）自殺対策推進計画（最終案）について

※別紙1に基づき事務局より説明。

〔質疑〕（□は委員からの発言、質疑等。 ■は事務局からの発言、説明等。）

□概要版の数値目標のところ、基準値は死亡率が14.8で、自殺者数が14.8じゃなくて12人ではないか。

■自殺者数は12人、目標値が8人ということで訂正させていただきます。

□27 ページの健康づくり推進協議会の施策の内容について、3行目、「各組織の中で自殺対策となるネットワークを広げていけるよう」という表現は、その前文を見ると「健康づくり対策を推進する各種団体や関係行政機関などに対し」という表現があるので、これは「各組織の中で」ではなくて「各組織の間で」ネットワークを広げていけるよう協力を呼びかけますのほうよろしいかと思う。

□30 ページの一番下の子育て支援、修正版の裏2ページになるが、「(4) 保育士にゲートキーパー研修の受講を促し」という文章は「保育士のゲートキーパー研修の受講により」というふうな文章に変更するという指摘だったが、32 ページにあるが、健康づくり推進委員会活動の内容として「推進委員のゲートキーパー研修の受講を促進し」と直っておらず、「促進促進」になっている。

□32 ページ一番下の地域包括支援センター総合相談事業も、「地域包括支援センター職員などのゲートキーパー研修の受講を促進し」となっているので、別紙1(4)のような表現に改めるのであれば、「推進委員のゲートキーパー研修の受講により」と統一したほうがよい。

□30 ページ、31 ページの「気付き」という言葉は、「付く」という字が漢字だったり仮名だったりするところが散見されるので、統一した方がよい。

□33 ページの、東京都シルバーパス交付の支援事業の部分で最後のところは「相談先の情報の周知を図ります」という表現になっているが、「相談先の情報について周知を図ります」のほうの方が分かりやすいのではないか。

□36 ページの一番下、「気付いた」が漢字になっており、37 ページのほうは乳幼児ショートステイ事業は「きづいた」が仮名になっており、「就学援助費支援支給事業及び」のところも仮名になっているので、ここは統一したほうがよいと思う。

□38 ページの真ん中辺、障がいや障がい者に対する理解の促進と権利擁護の推進事業のところであるが、2行目、「障がいに対する理解の取組と」という表現は、「理解促進の取組」

- とかいうような表現のほうが理解しやすいのではないかと思います。
- 40 ページの一番下の老人ホーム入所措置事業であるが、老人ホームへの入所手続きの中で、「家庭でのさまざまな問題について察知し、必要な支援先につなげるよう努めます」という表現の、この「察知し」に該当する表現が、他のところでは「したとき」、「そういったことに気付いたとき」というような表現になっており、ここだけは「察知し」で終わっている。「気付いたときには」という他の表現と合わせるのであれば、「問題について察知したときは」というふうな表現のほうがよいと思う。
- 42 ページ一番上の教育相談事業の2行目の、教育相談所の臨床心理士による相談業務というところであるが、平成29年度から公認心理士法が施行されているので、東京都などはスクールカウンセラー等の募集においては「公認心理士またはそれに準ずる者」というふうになっていることから、この2行目、「相談所の臨床心理士」のところは「相談所の公認心理士または臨床心理士」のほうがよいのではないかと。
- 44 ページの評価のところであるが、1番、地域におけるネットワークの強化の指標が実施としか書いてない。上の説明を見る、「ネットワークの基盤整備を進めた会議・活動数」というがあるので、ここは評価の指標としては実施回数ではないのかなと思う。
- 46 ページの4番目、一人ひとりが安心して生きることへの支援、最後の事業で、教育相談事業、そして子ども家庭支援センター事業の指標は継続とになっており、これがどういうことを指すのか、ちょっと分かりづらい。
- 48 ページの(4) 進行管理のところにPDCAサイクルという言葉があるが、イニシャルだけではなくて、注釈を付けた方が市民にも広く理解されるのではないかと思います。
- ご指摘のとおり、特に「気付いた」とか言葉の文言に統一性がないので、修正させていただきたい。
- 「促進」や「促し」の言葉についても、統一できるところについては、関係各課の捉え方というところもあるので、調整させていただき、極力修正をさせていただければと思う。
- 各部署の出された文言を尊重して修正するとなると、例えば32ページの真ん中に、介護予防リーダー育成事業とあるが、ここは「介護予防リーダーとなる住民にゲートキーパーに関する情報提供を行い」というふうに「住民に」という表現になっている。他のところは、例えば一番上の健康づくり市民推進委員会活動だと、「推進委員のゲートキーパー研修の受講を促進し」とあり、この「促進し」という言葉を生かすのであれば、やはり日本語的には「推進委員にゲートキーパーの研修の受講を促進し」である。助詞の問題であるが、「受講を促進する」という言葉を生かすのであれば、対象者を明確にした方がよいと思うので、各部署の方と検討してもらいたい。
- 42 ページの教育相談事業の臨床心理士について、教育委員会の担当部署に確認したが、現在はこの臨床心理士という名称で職員を雇用しておりということであるので、臨床心理士とさせていただければという回答になっている。
- 評価指標の46ページのところであるが、一番下の教育相談事業と子ども家庭支援センター事業の指標が継続であるという意味についてですけども、それぞれ相談事業で相談件数というのは毎年出てくるので、その件数を計上していくことは可能なのですが、相談事業の件数が増えるというのが良いというものなのか、また減れば安心した地域になったのか、その数字をどう見ていくのが非常に難しく、担当課と話した結果、まずこうした事業を実施し、その体制を維持して継続していくということでの指標となったところである。
- 趣旨はよく分かったが、指標というカテゴリーに継続という言葉はなじまない。何か補足などされないと分かりづらいと思う。
- 補足説明でこの下に※印などを入れて対応したいと思う。
- 実施というところで回数は載せたくないという担当部署の回答があったということであ

- るが、やはり虐待の件数をオープンにすることは大事だと思う。
- 32 ページの健康づくり推進委員会の活動のところで、「研修の受講を促進し」という、促進という言葉を生かすのであればという指摘があったが、そうすると別紙1のところで、「保育士にゲートキーパーの研修の受講を促し」というのを言い方を替えて、「ゲートキーパー研修の受講により」というふうに変えたところがちょっと矛盾してしまうのではないかなというふうに感じられる。
 - 身近な相談窓口というところで、市役所の代表電話ではなくて各係の直通番号に修正したというのは、すごく市役所の職員さんの意欲を感じて素晴らしいと思ったが、視力の弱い方や高齢の方にとってこの数字はとっても見にくいと思うので、全角にして数字とハイフンを大きく、また行間をもうちょっと空ける工夫をした方がいい。
 - 行間や文字サイズ等については、業者と調整して極力ご意見に添えるような形で対応したい。
 - 表現の統一というところで、ここは逆に協議会で統一したほうがいいのかを審議をいただければと思う。
 - この委員会で表記どうのこうのっていうより、表記便覧を見ていただき決めていただければと思う。
 - あえて統一する必要はないと思うが、例えば「保育士にゲートキーパーの研修の受講を促し」という表現であれば全く問題ないが、例えば32 ページの健康づくり市民推進委員会の活動の一番上、「推進委員のゲートキーパー研修の受講を促進し」というところは、やはり日本語的には「推進委員に受講を促進し」という表現が良いんじゃないかなと思う。「推進委員の」というふうに表現するのであれば、「ゲートキーパー研修の受講により」という先ほどの保育士の表現がよろしいかと思う。
 - 助詞の使い方は、こちらで確認をして修正します。
 - 概要版で最初に市の自殺の状況というところがあるが、左の文章と右のグラフが若干一致していない。表と文言を合わせたほうが良い。
 - 市の自殺の現状と課題が関連してないので、それと市の自殺の状況の文言とグラフが関連してない。それをもう少し分かりやすくし、整合性を取ったほうが良い。概要版だけを読んで分かるようにすべき。
 - 表紙のこのグリーンの色合いもすごい気になり、この葉っぱがすごくぼんやりした感じになってしまっているのは、何か意図があるのか。もう少しクリアな感じのほうが見やすいのではないかなと思う。
 - 白抜き文字は、高齢者の方で白内障とかの傾向がある方たちに見にくくないかなと思う。
 - 白抜きの字は基本的に表紙には持ってこない。バックが白で白抜きの字というのは視覚的に入りづらい。
 - 庁内連絡会も、この白抜きは見にくいという話があった。
 - 何かあきる野市オリジナルのデザインとかのほうが良いような気もする。
 - 木がモクセイで、花が菊であるが、花というのが連想的にあまり良くないイメージで、どうしても自殺と花っていうとたむけるみたい。それで取り下げたという経過がある。
 - ハートは八王子で使ってるかもしれない。
 - 葉っぱは葉っぱでいいと思うが、何かしみみみたいな感じである。この葉っぱをもっと輪郭をはっきりさせるとかすれば、しみみみたいなのではなくて縁がはっきり分かるようなのが重なってるっていうみたいなのにしたら、分かりやすいとかきれいである。
 - クリアにするとか、文字をはっきりさせるといったところはちょっと修正をかけていければと思う。
 - 計画書の中で東京都あきる野市と記載されているが、他の計画も確認したが、東京都は入

っていないので、取らせていただきたい。

(3) 自殺対策計画の推進について

※別紙3に基づき事務局より説明。

- 市内でいろんな悩み事も警察に電話していいということもやっているの、配るところは交番だけでもと思う。
- 現在の段階では、まずこの概要版という中であきる野市の自殺についてのご理解を少し深めていただきつつ、裏側に主な相談先ということで、まず身近な窓口としてセレクトした。
- 概要版をもらって見たときに、やはり一番気になるのは一番最後の主な相談先っていうところになるかなと思う。できれば何か困ったときには電話ができるようになってもらえるといいかなと思う。
- パンフレットは、相談先一覧に書いてあるところに配るといっているのであれば配りやすいかなと思う。警察署の本署のほうにただ置いとくっていうのはできるかもしれないが、実際の場面ではそういったもののほうが警察としては通りやすいかなと思う。
- 概要版はどのぐらい印刷するのか。
- 別紙3で紹介してるこのさまざまなところを考えると、健康課の事業で市民に配布する数が多くなり、たぶん何千から何万ぐらいの数になってしまう可能性はあるかと思う。随時またその事業ごとで庁内での印刷をしながら増刷して対応していきたいと考えている。
- ゲートキーパー研修については西多摩保健所の協力を得ながらというふうに書かれているが、特定の団体になってしまうけれども、ライフリンクの話は本当にもう鬼気迫るものがある、そういう専門家を招いて開催していただけたらと思う。
- まず東京都である保健所との連携と協力というところは不可避なところであるので、そこがちょっと前提になってくると思うが、様々な研修が開催されているので、今後職員のスキルアップに努めていきたいと考えている。

その他

○事務局説明事項

- ・ 2月26日水曜日に、植田会長からあきる野市長に提出をする予定
- ・ 3月18日水曜日、議会の全員協議会において配布し報告をする予定
- ・ それら協議等全て終わった後、策定が確定した段階で計画書の本書を郵送させていただく

○来年度の会議について

- ・ 4月から計画がスタートし、おおむね12月ごろまでの各種進捗状況や統計のデータなどを取りまとめたものを、年明けに庁内連絡会を経て大体2月から3月ごろに開催をさせていただく予定になっている